



予防接種の知識

これまで日本は予防接種後進国と言われてきましたが、最近は予防接種の種類も増え先進国にずっと近づいてきました。特に1歳までに受ける予防接種の種類が増えました。わが子の健康を守るために、予防接種の意味を理解し、心配なことは解決してから受けましょう。

感染症の中には罹ると重症になったり、後遺症が残ったり、死に至ることもあります。この感染症に罹らないように、あるいは罹っても軽くすむようにするには予防接種を受けることが最善の方法なのです。生後2ヶ月になったらワクチンデビューです。まずはかかりつけの小児科を見つけ、予防接種について相談、予約を入れましょう。

この「安心子育て応援ブック」では予防接種について理解し、少しでも安心して予防接種を受けることができるように、小学校入学までに受ける予防接種及びそのスケジュールについて説明します。

なぜ予防接種を受けるの？

ウイルス、細菌などの病原微生物が体内に侵入すると、発熱や鼻汁・咳あるいは嘔吐・下痢等の症状が出現します。重症化した場合には、けいれんや意識障害、脳の障害等を惹き起こしたり、あるいは死に至ることがあります。これが感染症です。予防接種は感染症にかからないようにする方法の一つですが、この時投与する薬液がワクチンです。このワクチンを投与することにより感染症に対する免疫を前もって作らせ、感染症にかからないようにしておくことができるのです。

“麻しん”を例にとって説明しましょう。麻しんウイルスが体内に侵入すると、ウイルスは体内で増えはじめます。麻しんウイルスがある程度増えると徐々に咳や鼻汁、発熱などの風邪症状が現れてきます。症状は更に増強し、高熱が続き、ピーク時には典型的な発疹が体に現れてきます。体はウイルスの侵入に対して直ぐには反応できず、免疫を作るのに時間がかかり、増殖を抑えることができません。そのため非常に重症感のある症状を呈してしまうのです。

麻しんワクチンは毒性を弱めてあり、ほとんど症状を呈することなく麻しんの免疫を作らせる作用があります。また体内の細胞が麻しんウイルスに対する免疫反応を記憶します。本来の麻しんウイルスが侵入してきたとき、ウイルスが増える前に、この細胞がすぐに反応し麻しんウイルスを撃退させてしまいます。麻しんワクチン接種をしておくと、何の症状も呈することなく、あるいは非常に軽度の症状で終わることができるのです。是非、この素晴らしい感染症の予防法を大事な子どもさんたちに利用してあげてください。

予防接種にはもう1つ大きな意義があります。それは個人の感染予防だけでなく、その感染症の流行を防ぎます。1人1人が確実に予防接種を受ければ、多くの人たちがその感染症に罹らなくなり、その感染症は流行しなくなります。そして予防接種を受けることのできない病気の人たちを感染症から守ることができるのです。

ワクチンにはこんな種類があります。

生ワクチン：病原体を生きのまま増やし、毒性を弱めたもの。実際に病気にかかった時と同じように免疫をつくるワクチンです。

ロタウイルス（経口）・BCG・麻しん風しん混合・麻しん・風しん・みずぼうそう（水痘）・おたふくかぜ（注射）など

不活化ワクチン：病原体を殺して、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して毒性をなくしてつくったワクチンです。体内では増えないので、免疫を高め、また免疫が減らないように数回追加接種する必要があります。

小児用肺炎球菌・インフルエンザ菌b型（ヒブ）・B型肝炎・A型肝炎・四種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ）・二種混合（ジフテリア・破傷風）・日本脳炎・季節性インフルエンザなど

●従来、生ワクチンと不活化ワクチンとの接種間隔に制限がありましたが、2020年10月より注射の生ワクチン同士は27日以上あけて接種するという制限のみとなり、それ以外の制限はなくなりました。ただし、複数回接種する同じワクチンの接種間隔は決まっていますので注意してください。

予防接種にはこんな種類があります。

令和3年1月現在

定期接種：予防接種法に基づいて、国が「受けるように努めなければならない」として、強く勧めている予防接種です。対象の年齢であれば、多くは無料で受けられます。

ロタウイルス・小児用肺炎球菌・ヒブ・B型肝炎・BCG・四種混合・二種混合・麻しん風しん混合・麻しん・風しん・水痘・日本脳炎・子宮頸がん

任意接種：接種を受ける人または保護者が自ら希望して受け、費用は自己負担します。加古川市・稲美町・播磨町では、一部の予防接種に助成券が発行されています。

A型肝炎・おたふくかぜ・季節性インフルエンザなど（定期接種の

予防接種でも、法律で定めた定期接種の対象年齢以外で受ける場合は任意接種となります。)

予防接種を受ける方法にはどんな方法があるの？

個別接種：かかりつけの小児科や病院で接種します。赤ちゃんをよく知っている医師だから安心です。

集団接種：決められた日時に、決められた場所で接種します。当地区では、現在集団接種は実施されていません。

同時接種とはなんですか？

通院1回で、2種類以上の予防接種を連続して接種します。

なぜ同時に接種する必要があるのですか？

乳児期早期に、定期接種ではロタウイルスワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチン・B型肝炎ワクチン・四種混合ワクチン・BCGワクチンという重要なワクチンを1～3回合計15～16回接種しなければなりません。ワクチンで防げる病気（VPD）から確実に子供を守るためには、必要なワクチンを適切な時期に適切な回数接種しなければなりません。1種類ずつ接種していると時間がかかり過ぎてとてもVPDから子供を守ることができません。例えば、後遺症を惹き起こしたり生命を落としてしまうことのあるヒブや肺炎球菌からの細菌性髄膜炎、乳児期早期にかかると非常に怖い百日咳から守る必要があるのです。またロタウイルスワクチンは腸重積の副反応から守るために接種時期が制限されています。BCGも接種時期が制限されていますので適切な時期に接種を完了するには同時接種が必要で、日本小児科学会も同時接種を勧めています。

同時に接種して大丈夫ですか？効果はあるのですか？

2010年末ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの公費負担が始まり、同時接種が一般的に行われるようになって同時接種後の死亡が数例報告され、一時ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン接種が中止されたことがあります。しかしその後の検証の結果ワクチン接種・同時接種とは関係ないことが立証され、これらのワクチン及び同時接種が再開されました。欧米では日本よりも10年以上前から行われていて何の問題も発生していません。

日本小児科学会では同時接種について現在分かっていることとして以下のことをあげています。

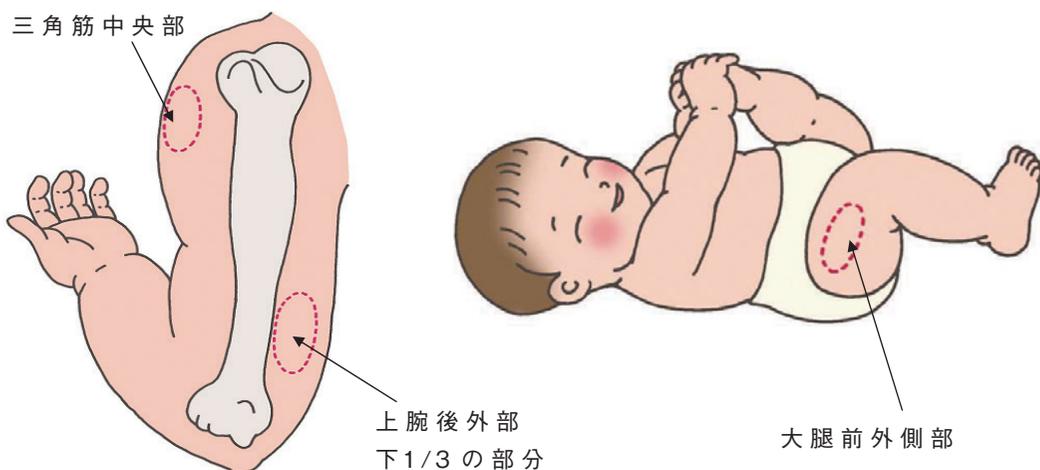
1. 複数のワクチン（生ワクチンを含む）を同時に接種して、それぞれのワクチンに対する有効性について、お互いのワクチンによる干渉はない。（注1）
2. 複数のワクチン（生ワクチンを含む）を同時に接種して、それぞれのワクチンの有害事象、副反応の頻度が上がることはない。
3. 同時接種において、接種できるワクチン（生ワクチンを含む）の本数に原則制限はない。

注1：例外として、コレラ+黄熱ワクチンでは効果が減弱することが知られている。

以上のことから考えますと、現時点では同時に接種して大丈夫であり、効果も十分期待できると判断できます。

同時にどこに接種するのですか？

接種場所は以下の通りです（例外：BCGは別、ロタウイルスは飲むワクチン）。



同時接種をしたくない場合はどうすればいいのですか？

どうしても心配で同時接種したくない場合はかかりつけ医に相談してください。うまくスケジュールを立てられれば、一つずつ接種することも可能ですが、実際は先に述べた通り、特に乳児期早期では受けるべき予防接種の数が非常に多く、同時接種せずにスケジュールを立てることは非常に困難です。同時接種をしない場合のデメリットを改めて述べると「毎週のように医療機関に行く必要がある」「予防接種の完了が遅れるため、免疫を獲得する前にその病気にかかる危険性が高くなる」といったことがあります。以上を理解した上で、かかりつけ医等とよく相談をしていただき、十分納得した方法で予防接種を受けるようにしてください。

任意接種は受けなくてもいいのですか？

定期接種は接種しなければいけないもの、任意接種はどちらでもいいものと思っ
ていませんか。「定期」と「任意」は単に法律上の区分であって、どちらも病気を防ぐには重
要な予防接種なのです。どちらも大切と思ってください。例えば、おたふくかぜワクチ
ンは任意接種ですが、おたふくかぜにかかると髄膜炎や難聴など、重大な合併症を伴う
ことがあります。ただ任意接種は、一部助成制度もありますが、その費用は原則自己負
担です。早くおたふくかぜワクチン等が定期接種となり無料化されることを望みます。

いつからどんな予防接種を受けはじめたらいいの？

生後2ヶ月になったら予防接種を開始しましょう。ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワ
クチン・B型肝炎ワクチン・ロタウイルスワクチンを開始します。生後3ヶ月になっ
たら四種混合ワクチン、生後5ヶ月にはBCGを開始しましょう。この章の最後に現在広く
推奨されている予防接種スケジュールをわかりやすく図表にしたものを載せていますの
で参照してください。

注意したいのが接種間隔で複数回接種するワクチンはその間隔が決まっています。こ
のことについてもう少し詳しく解説します。

● 1歳の誕生日までに受けたい予防接種推奨スケジュール

生後2ヶ月になったら、ワクチンデビューです。

- ◎できるだけ早くヒブ・小児用肺炎球菌・B型肝炎・ロタウイルスワクチンの接種
から始めましょう。
- ◎4週間以上あけて生後3ヶ月になったら、すぐにヒブ・小児用肺炎球菌・B型肝炎
・ロタウイルスワクチンの2回目と四種混合ワクチンの1回目を受けましょう。
- ◎さらに、4週間以上あけて早めにヒブ・小児用肺炎球菌・ロタウイルスワクチン
3回目（注：ロタウイルスワクチンは2回で終了のものが有ります）、四種混合ワ
クチン2回目接種です。
- ◎さらに、4週間以上（前回ロタウイルスワクチンを受けていなければ3週でも可）
あけて四種混合ワクチン3回目接種です。5ヶ月になっていれば次に述べるBC
Gと同時接種も可能です。
- ◎生後5ヶ月になったら（遅くとも原則8ヶ月までに）BCGの接種です。
- ◎B型肝炎ワクチン3回目は1回目接種後より約5ヶ月（20週）～6ヶ月（24週）
あけて接種です。

色々な事情でワクチンデビューが遅れることがあります。そのときはかかりつけ
医に相談しましょう。

● 1歳の誕生日から2歳までに受けたい予防接種推奨スケジュール

- ◎ 1歳のお誕生日を迎えたら、麻しん風しん混合ワクチン（MR1期）とみずぼうそう（水痘）ワクチンを接種しましょう。同時接種を行えば少しでも早く免疫を獲得できます。同時接種しない場合、MRワクチンと水痘ワクチンはどちらも注射の生ワクチンなので、中27日（4週間）以上あけて接種しなくてはなりません。
- ◎ 小児用肺炎球菌ワクチンの追加接種は生後12ヶ月～15ヶ月の間に（やむを得ず過ぎてでも出来るだけ早くに）接種しましょう。時期が合えばMRワクチン、水痘ワクチンと同時接種が可能です。
- ◎ ヒブワクチンの追加接種は1歳になって3回目から7ヶ月以上あいていれば早めに（遅くとも原則3回目から13ヶ月以内に）受けましょう。これも時期が合えば、MRワクチン、水痘ワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの追加接種等と同時接種が可能です。
- ◎ 四種混合ワクチンの追加接種は1期3回目から1年あいたら（遅くとも原則3回目から一年半以内に）受けましょう。
- ◎ 水痘ワクチンの追加接種は1回目から6ヶ月あいたら受けましょう。水痘ワクチンは接種が1回だけだと3割ぐらいはかかります。周りで水痘の流行が続いていて気になる等あれば、1回目から最低3ヶ月あいていれば受けることも可能ですのでかかりつけ医に相談してください。
- ◎ 1歳になったらおたふくかぜワクチンも受けましょう。
- ◎ 以前16歳以上でしか受けられなかったA型肝炎ワクチンは今では1歳以上であれば接種可能となっています。海外渡航予定者は特に重要ですが、渡航予定に関わらず全員受けるべきという意見もあります。接種についてはかかりつけ医に相談してください。
- ◎ 季節性インフルエンザ（生後6ヶ月以上で可能）は毎年の接種が必要です。12歳以下は2回接種（2～4週間隔）です。12月までに受けましょう。

● 3歳以降受けたい予防接種スケジュール

- ◎ 日本脳炎ワクチンを受けましょう。
1～4週間あけて初回の2回を接種し、2回目の接種から約1年後に追加接種を1回受けましょう。
- ◎ 日本脳炎ワクチンは、生後6カ月を過ぎれば、定期接種として受けられます。3歳未満でも海外（特にアジア）に長期滞在する場合や日本でも発症リスクの高いところでは接種が推奨されます。かかりつけ医にご相談ください。

- ◎小学校入学前年（4月から翌年3月末まで）もう1回麻疹風疹混合ワクチン（MR2期）を受けましょう（5～7歳未満で就学前年度中）。
- ◎おたふくかぜワクチンも今では複数回接種が推奨されています。かかりつけ医と相談の上ぜひ追加接種を受けましょう。
- ◎百日せきの感染予防目的で、小学校入学前、年長の頃に三種混合ワクチンを1回接種することが勧められています。また、乳児のいる家庭では、年長まで待たずに4歳ぐらいで接種する方がよいとも言われています。任意接種ではありますが、かかりつけ医に相談の上、ぜひとも受けるようにしましょう。

接種日までにどんなことを準備しておいたらいいの？

1. 予防接種手帳を見て、予防接種協力医療機関の確認をし、医療機関に予約をいれましょう。その時受ける予防接種ワクチンの種類と日時は間違わないようにメモしておきましょう。
2. 接種予定の予防接種ワクチンについての効果、副反応、接種後の注意、もし副反応が出た場合の対処方法、健康被害救済制度などを読んでおきましょう。
3. 接種前日しておくこと
子どもさんの体調を確認、全身を観察、体温を測り、皮膚に発疹がないか便はいつもと変わらないかなどを観察する。明らかにいつもと様子が違うときは思い切って接種を延期しましょう。判断に迷うときは、当日の問診、診察のときかかりつけ医によく相談をしましょう。
予診票に必要事項を記入します。前日夜の体温も記入を（記入欄ある時）。

●持ち物を用意

予診票・接種券・母子健康手帳・予防接種手帳・健康保険証は忘れずに！

接種前の検温、問診等で受診に変わることもありますので、できるだけ健康保険証、乳幼児医療費受給者証も持参してください。

いよいよ接種日です！

1. 接種当日にすること
 - 1) 体調を確認
 - 2) 指示に従い体温を測り、予診票をもとに問診・診察
 - 3) 医師と保護者がサイン
 - 4) ワクチン接種

2. 接種後の過ごし方

- 1) 接種後30分は医療機関（接種会場）で待機するか、よくお子さんを観察して医師とすぐ連絡をとれるようにしておくこと。
- 2) 接種後の注意書きを読む
- 3) 接種部位を清潔に保ち、当日の激しい運動は控えること
- 4) 当日のお風呂はOK（接種部位は強くこすらずに）

予防接種後の反応について

予防接種では、毒性をなくしたり病原性を弱めたワクチンを体に入れます。何らかの軽い反応は、よくみられます。一般的な反応について以下に説明します。個々のワクチンの副反応については予防接種手帳に詳しく書かれています。子どもが受ける予防接種については熟読しておきましょう。

(1) 通常みられる反応

ワクチンの種類によっても異なりますが、発熱、接種局所の発赤・腫れ、しこり、発疹などが比較的高い頻度（数%から数十%）で認められます。通常、数日以内に自然に治ります。心配の必要はありません。

(2) 重い副反応

予防接種を受けたあと、接種局所のひどい腫れ、高熱、ひきつけなどの症状があったら、医師の診察を受けてください。

ワクチンの種類によっては、極めてまれ（百万から数百万人に1人程度）に脳炎や神経障害などの重い副反応が生じることがあります。このような場合に厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

(3) 紛れ込み^{まぎ}反応

予防接種を受けたしばらく後に、何らかの症状が出現すれば、予防接種が原因ではないかと疑われることがあります。しかし、たまたま同じ時期に発症した他の感染症などが原因であることが明らかになることもあります。これを「紛れ込み^{まぎ}反応」といいます。

予防接種は計画を立てて受けましょう。

スケジュールを立てて接種の日が決まったらスケジュール表に書き込んでおきましょう。上手くスケジュールを立てることができない場合は、かかりつけ医に相談しましょう。

任意予防接種費用助成制度について

加古川市・稲美町・播磨町では任意予防接種費用の一部助成を行う制度があります。各市町の予防接種協力医療機関で接種した場合、助成を受けることができます。詳細は以下の窓口にお問い合わせください。

行政	対象の予防接種	回数	助成額	接種時期
加古川市	おたふくかぜ	1回	2,000円	1～4歳未満
稲美町	おたふくかぜ	1回	2,000円	1～4歳未満
	季節性インフルエンザ	1回	2,000円	生後6か月～4歳未満
播磨町	おたふくかぜ	1回	2,000円	1歳～小学校入学前

加古川市・稲美町・播磨町での任意予防接種助成券（2020年12月現在）

※稲美町：平成31（2019）年4月2日以降に生まれた方が対象です。

【お問い合わせ先】

加古川市：育児保健課（母子保健係） 電話：079-454-4188

稲美町：こども課（育児支援係） 電話：079-492-9155

播磨町：播磨町すこやか環境グループ 電話：079-435-2611

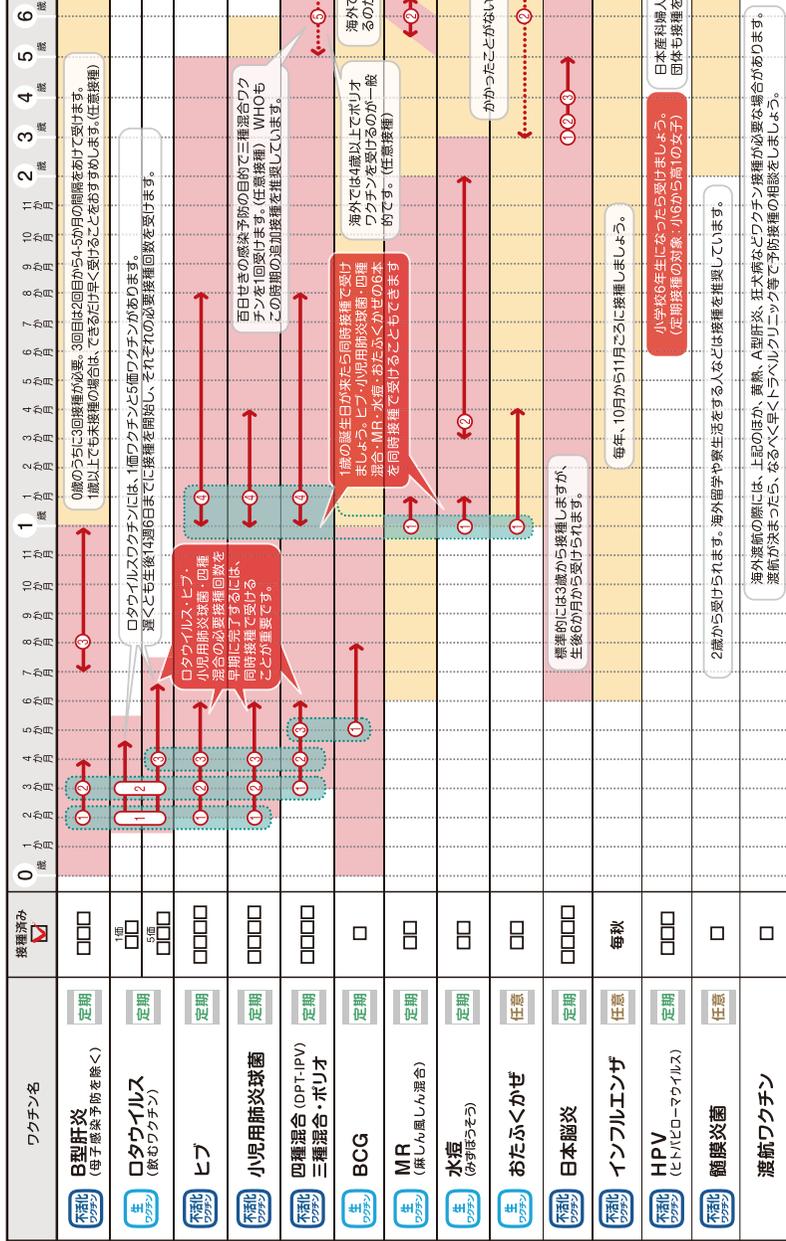


2020年10月版

予防接種スケジュール

大切な子どもをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種を受けることが重要です。このスケジュールはNPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会による最も早期に接種を受けるための提案です。お子さまの予防接種に關しては、地域ごとの接種方法やVPDの流行状況に応じて、かかりつけ医と相談のうえスケジュールを立てましょう。

ワクチン名	接種済み	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	(満年齢)
B型肝炎 (母子感染予防を兼ねく)	<input checked="" type="checkbox"/>															
ロタウイルス (飲むワクチン)	<input type="checkbox"/>		1	2												
ヒブ	<input type="checkbox"/>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
小児用肺炎球菌	<input type="checkbox"/>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
四種混合 (OPT-IPV) 三種混合・ポリオ	<input type="checkbox"/>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
BCG	<input type="checkbox"/>		1													
MR (麻疹・風しん混合)	<input type="checkbox"/>		1	2												
水痘 (かぜっぽそう)	<input type="checkbox"/>		1	2												
おたふくかぜ	<input type="checkbox"/>		1	2												
日本脳炎	<input type="checkbox"/>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
インフルエンザ	<input type="checkbox"/>															
HPV (ヒトパピローマウイルス)	<input type="checkbox"/>															
髄膜炎菌	<input type="checkbox"/>															
渡航ワクチン	<input type="checkbox"/>															



定期 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。任意接種 ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。同時に複数のワクチンを受接種することができます。安全性は単独でワクチンを受接種した場合と変わりません。同時接種: 国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として最も適当(外部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。

定期予防接種の対象年齢

定期予防接種(数字は接種回数) ←○→ 添付文書に記載のないおすすり接種時期 (※) 添付文書に記載はないが、接種を推奨

異なる種類の注射の生ワクチン同士の接種間隔は最短で4週間です(4週間後の同じ曜日から接種可)。

詳しい情報は <http://www.know-vpd.jp/> VPD

◎ NPO法人VPDを知って、子どもを守ろうの会